

【原文】

天法垂象、上古聖人常象之、不敢違離也。故厭不祥、斷狡猾、使妖臣不得作者、皆由案天法而爲之。欲使陽氣日興、火大明、不知衰時者、但急絕由金氣、勿使王也。金氣斷、則木氣王、火氣大明、無衰時也。何謂也。*人〔天〕君當絕兵、兵者、金類也、故急絕之。帝王戒賜兵器與諸侯、是王金氣也。金氣王則木衰、木衰則火不明、火不明則兵起之象。火者君象、能變四時、熒惑爲變最效、天法不失銖分。

*原文は「天君當絕兵」に作る。『太平經』卷六十五、斷金兵法第九十九に據つて「天」を「人」に改める。

【訓讀】

天の法 象を垂れ、上古の聖人 常にこれに象る。敢へて違離せざるなり。故に不祥を厭へ、狡猾を斷ち、妖臣をして作るを得ざらしむ者は、皆 天の法を案じて之を爲すに由る。陽氣をして日に興り、火をして大いに明らかにして、衰ふる時を知らざらしめんと欲する者は、但だ急ぎ金氣に由るを絶ちて、王んならしむること勿かれ。金氣斷てば、則ち木氣王んに、火氣大いに明らかにして、衰ふる時無きなり。何の謂ぞや。人君當に兵を絶つべし、兵なる者は、金類なり、故に急ぎこれを絶つべし。帝王兵器を賜ひて諸侯に與ふるを戒む。是れ金氣を王んにすればなり。金氣王んなれば則ち木衰ふ。木衰ふれば、則ち火明らかならず。火明らかならざれば、則ち兵起こるの象なり。火なる者は君の象、能く四時を變じ、熒惑變を爲すは最も效あり、天の法 銖分を失はず。

【譯】

「天の法は象を降して、上古の聖人は常にこれに象り、背き離れることなどはなかった。それゆえ、不吉なものを圧さえ鎮め、狡猾な者ども絶やし亡ぼし、妖邪の臣が抬頭できぬようにしたのは、すべて天の法を勘案して、これを踐み行ったことによる。陽の氣を日ごとに興隆させ、火の氣を盛んにして明るさを増し、衰退の時が来ぬように望むのであれば、ただすみやかに金の氣に由来するものを断ち切るがよい、(金の氣を)旺盛にさせてはならぬ。金の氣が断絶すれば、木の氣が旺んになり、火の氣が盛んとなって明るさを増し、衰退の時が来ることはない。」「どういうことでしょうか。」「君主は武器を廢絶すべきである。武器は、金に類する。それゆえ、すみやかにこれを廢

絶するのである。帝王は、兵器を諸侯に賜与することを警戒する。金の気を旺んにするからである。金の気が旺んになれば、木の気が衰える。木の気が衰えれば、火の気は明るさを増さない。火が明るくないのは、兵乱が起こる象である。火は君の象であり、四季のめぐりに変異をもたらすことができる。熒惑（火星）が変異を引き起こすときは、最も劇しい効力を發揮する。天の法は、わずかにも違うことはない。

【参考】

『太平經』卷六十五、斷金兵法第九十九

天法垂象、上古聖人常象之、不敢違離也。故常厭不祥、斷狡猾、使祿臣不得作者、皆由案天法而爲之、欲使陽氣日興、火大明、不知衰時者、但急絕由金氣、勿使其王也。金氣斷、則木氣得王、火氣大明、無衰時也。何謂也。然、人君當急絕兵、兵者、金類也、故當急絕之故也。

【注】

○天法垂象、上古聖人常象之

『周易』繫辭上 天垂象、見吉凶、聖人象之。河出圖、洛出書、聖人則之。

○違離

『漢書』藝文志、諸子略 儒家者流……唐虞之隆、殷周之盛、仲尼之業、已試之效者也。然惑者既失精微、而辟者又隨時抑揚、違離道本、苟以譁衆取寵。

『周易』繫辭上 易與天地準、故能彌綸天地之道。仰以觀於天文、俯以察於地理、是故知幽明之故。……與天地相似、故不違。知周乎萬物而道濟天下、故不過。

○厭不祥

『老子』三十一章 夫佳兵者、不祥之器、物或惡之、故有道者不處。君子居則貴左、用兵則貴右。兵者不祥之器、非君子之器、不得已而用之、恬淡爲上。勝而不美、而美之者、是樂殺人者、則不可以得志於天下矣。

○狡猾

『春秋左氏傳』昭公二十六年 若我一二兄弟甥舅、獎順天法、無助狡猾、以從先王之命、毋速天罰、赦圖不穀、則所願也。

○使妖臣不得作

『禮記』樂記 子夏對曰、夫古者、天地順而四時當、民有德而五穀昌、疾疢不作而無妖祥、此之謂大當。

『孟子』滕文公下 閑先聖之道、距楊墨、放淫辭、邪說者不得作。

○但急絕由金氣、勿使王也

『太平經』卷六十五、斷金兵法 木行火行、無妄從興金嶽、使錢得數王、盜行以爲大害、使治難平也。反使金氣得大王、爲害甚甚、能應吾天法、斷之者立吉矣。治興、祿臣絕、天法不欺人也。

○金氣斷、木氣王、火氣大明

『太平經』卷六十五、斷金兵法 故惟春則天激絕金氣於戊、故木得遂興火氣、則明日盛、則金氣囚、猜人斷絕。

○兵者、金類也

『史記』天官書 西宮、咸池、曰天五潢。五潢、五帝車舍。火入、旱。金、兵。水、水。中有三柱。柱不具、兵起。

『史記』高祖本紀 祠黃帝、祭蚩尤於沛庭、〔集解〕應劭曰、左傳曰、黃帝戰於阪泉、以定天下。蚩尤好五兵、故祠祭之求福祥也。瓚曰、管仲云、割廬山交而出水、金從之出、蚩尤受之以作劍戟。

○帝王戒賜兵器與諸侯、是王金氣也

『太平經』卷六十五、斷金兵法 今反時時王者賜人臣以刀兵、兵、金類也、迺帝王賜之、王者王之、名爲金王。

○金氣王則木衰、木衰則火不明、火不明則兵起之象

『太平經』卷六十五、斷金兵法 金王則厭木而衰火、金王則令甲乙木行無氣、木斷乙氣、則火不明。木王則土不得生、火不明則土氣日興、地氣數動、有祿祥、故當急絕滅云。

『後漢書』郎顛傳 罰者白虎、其宿主兵、其國趙、魏、變見西方、亦應三輔。凡金氣爲變、發在秋節。……且立春以來、金氣再見、金能勝木、必有兵氣、宜黜司徒以應天意。陛下不早攘之、將負臣言、遺患百姓。

○火者君象

『太平經』卷六十五、斷金兵法 南方、火也、火爲君。

『漢書』五行志、下之下 劉向以爲君臣亂於朝、政令虧於外、則上濁三光之精、五星羸縮、變色逆行、甚則爲孛。北斗、人君象。孛星、亂臣類、篡殺之表也。

『後漢書』鄭興傳 日君象而月臣象。

○能變四時

『說苑』辨物 易曰、仰以觀於天文、俯以察於地理、是故知幽明之故。夫天文地理、人情之效存於心、則聖智之府。是故古者聖王既臨天下、必變四時、定律歷、考天文、揆時變、登靈臺以望氣氛。

○熒惑爲變最效

『史記』天官書 察剛氣以處熒惑。曰南方火、主夏、日丙、丁。禮失、罰出熒惑、熒惑失行是也。出則有兵、入則兵散。

『漢書』律曆志上 五星之合於五行、水合於辰星、火合於熒惑、金合於太白、木合於歲星、土合於填星。

『太平經』卷六十五、斷金兵法 春從興金兵、則賊傷甲乙木行、令天青帝不悅、天赤帝大怒、丙丁巳午不順。欲報父母之怨、令使火行、多災怪變、生不祥祿害姦猾。其法反使火治憤憤雲亂、不可乎、大咎在此也。……火迺稱人君、故其變怪最劇也。

其四行不能也。子欲重知其明效、五星熒惑、爲變最劇也、此明效也。其四星不能。○不失銖分

下注「天有三皇：人有五霸」の項参照。

【原文】

王者居家主修田野治生、見之、*會當有賜〔四〕者、不賜、恩愛不下加民、令赤子無以*誦道〔訟盜〕、當奈何。見賢者賜以文、飢者賜之以食、寒者賜與衣。賢者何故賜與文乎。文者生於東、明於南、故天文生于東北、故書出於東北。「象、」虎有文在寅、龍有文在辰、負而上天。離爲文章在南、故三光爲文、日出於東、盛於南。天命帝王、象之爲法。

*原文は「會當有四者」に作る。『太平經』卷六十五、王者賜下法第一百に據って「四」を「賜」に改める。

**原文は「訟盜」に作る。『太平經』卷六十五、王者賜下法に據って「誦道」に改める。

【訓讀】

王者の居家は、田野を脩め生を治むるを主る。これを見るに、かなら會ず當に賜ふべき者有り、賜はずんば、恩愛下に民に加はらず、赤子をして以て道を誦すること無からしめん。當に奈何すべき。賢者を見れば賜ふに文を以てし、飢うる者にはこれに賜ふに食を以てし、寒ひやゆる者には衣を賜與す。賢者には何故に文を賜與するか。文なる者は東に生じ、南に明らかなり。故に天文は東北に生じ、故に書は東北に出づ。「象に、」虎は文有りて寅に在り、龍は文有りて辰に在り、負ひて天に上る。離文章を爲すは南に在り。故に三光文を爲して、日は東に出で、南に盛んなり。天帝王に命じて、これを象りて法と爲さしむ。

【譯】

「君王の家人たる庶民は、田地を整備して耕し、生産を主ります。彼らを視察して、必ず与えねばならないものがあります。与えなければ、恵みはしもの民に施されず、道を誦習する機会を、民から失わせてしまいます。どうすればよいのでしょうか。」

「賢者に対しては（真道の）文を与え、飢えに苦しむ者には食を与え、寒さに凍える者には衣服を与える。」「賢者には、なぜ文を与えるのですか。」「文は、東において生じ、南において明らかになる。故に、天文は東北に生じ、それゆえ、河図洛書は東北に出現する。「現象においては、」虎は文様が有って、寅の方角（東北東）に宿り、龍は文様が有って、辰の方角（東南東）に宿り、（文様を）身に帯びて天に昇る。離の卦

は南方において美しい文様を成す。それゆえ、三光が成す天文現象においては、太陽は東に昇り、南において輝きは盛んになる。天は帝王に命じて、これらを象つて法のりとさせるのである。」

【参考】

『太平經』卷六十五、王者賜下法第一百

今天師辛亥爲愚生陳天法悉具，願復問一事。今帝王見群臣、下及民人。天法、爲人父母、見其臣、是王者賢子也、故助王者治理天地也。▼民者、是王者居家不肖子也、爲王者主脩田野治生。見之、會當有可以賜之者、不賜則恩愛不下加民臣、令赤子無所誦道。當奈何哉。善哉、真人之言也。然、見賢者賜以文、見飢者賜以食、見寒者賜以衣。見賢者何故賜之以文乎。所以賜以文者、文者生於東、明於南、故天文生東北、故書出東北、而天見其象。虎有文、家在寅。龍有文、家在辰。負而上天、離爲文章在南行。故三光爲文、日最大明。故文者生於東、盛於南、故日出於東、盛於南方。天命帝王、當象天爲法。▲故當賜文以興。太陽、火之行也、日興、火能分別睹文是與非、文亦所以記天下是非也。

【注】

○居家

『史記』樂布列傳

始梁王彭越爲家人時、〔索隱〕謂居家之人、無官職也。嘗與布游。

『新書』大政下

慈民之道、不過於愛其子、故不肖者之愛其子、不可以慈民。居家之道、不過於居家、故不肖者之於家也、不可以居官。

『後漢書』董卓傳

卓自屯留畢圭苑中、悉燒宮廟官府居家、二百里內無復子遺。

○修田野

『孟子』告子下

天子適諸侯曰巡狩、諸侯朝於天子曰述職。春省耕而補不足、秋省斂而助不給。入其疆、土地辟、田野治、養老尊賢、俊傑在位、則有慶。慶以地。

『呂氏春秋』孟夏紀、尊師

之田野、力耕耘、事五穀。

○治生

『史記』淮陰侯列傳

淮陰侯韓信者、淮陰人也。始爲布衣時、貧無行、不得推擇爲吏、又不能治生商賈、常從人寄食飲、人多厭之者。

『史記』貨殖列傳

夫織嗇筋力、治生之正道也、而富者必用奇勝。

○恩愛

『漢書』王吉傳

百里不同風、千里不同俗、戶異政、人殊服、詐僞萌生、刑罰亡極、質樸日銷、恩愛浸薄。

○赤子

『尚書』周書、康誥

有敘、時乃大明、服。惟民其敕懋和。若有疾、惟民其畢棄

答。若保赤子、惟民其康乂。

○誦道

『墨子』魯問 翟以爲不若誦先王之道、而求其說、通聖人之言、而察其辭、上說王公大人、次匹夫徒步之士。

○見賢者賜以文

『太平經』卷六十五、王者賜下法 樂象天法、而疾得太平者、但拘上古中古下古之真道文圖書、取其中大善者集之以爲天經、以賜與衆賢、使分別各去誦讀之。……願問何不賜之以他文經書。然、他書非正道文、使賢儒迷迷、無益政事、非養其性。經書則浮淺、賢儒日誦之、故不可與之也。然同可拘上古聖經善者、中古聖經善者、下古聖經善者、以爲文以賜之。

○見飢者賜之以食、見寒者賜與衣

『三國志』呂蒙傳 疾病者給醫藥、饑寒者賜衣糧。

○文者生於東、明於南……

『太平經』卷六十九、天讖支干相配法 夫天法、帝王治者常當以道與德、故東方爲道、道者主生。南方爲德、德者主養、故南方主養也。治者、當象天以文化、故東方爲文、龍見負之也。南方爲章、故正爲文章也。章者、大明也、故文生於東、明於南。故天文者、赤也、赤者、火也。仁與君者動上行、日當高明、爲人作法式。故木與火動者、輒上行也、君之象也。故居東、依仁而上、其治者故當處南。

○天文生東北、故書於出東北

『周易』賁 彖曰、賁、亨。柔來而文剛、故亨。分剛上而文柔、故小利有攸往。天文也。文明以止、人文也。觀乎天文、以察時變。觀乎人文、以化成天下。

『周易』繫辭上 河出圖、洛出書、聖人則之。

○虎有文在寅、龍有文在辰、負而上天

『周易』革 九五、大人虎變、未占有孚。象曰、大人虎變、其文炳也。

『論衡』物勢 寅、木也、其禽虎也。

『淮南子』天文訓 太陰在寅、朱鳥在卯、勾陳在子、玄武在戌、白虎在酉、蒼龍在辰。

『漢書』五行志、中之上 說以爲於天文東方辰爲龍星。

『周易』乾 文言曰、……九五曰、飛龍在天、利見大人。何謂也。子曰、同聲相應、同氣相求。水流濕、火就燥。雲從龍、風從虎。聖人作而萬物覩。本乎天者親上、本乎地者親下。則各從其類也。

○離爲文章在南

『周易』說卦 離也者、明也。萬物皆相見、南方之卦也。聖人南面而聽天下、嚮明而治。蓋取諸此也。

『漢書』五行志、中之上 離在南方、為夏為火也。

『周禮』冬官考工記 青與赤、謂之文、赤與白、謂之章、白與黑、謂之黼、黑與青、

謂之黻、五采備、謂之繡。

『荀子』非相 贈人以言、重於金石珠玉。觀人以言、美於黼黻文章。

○三光

下注「天有三皇若三光」の項参照。

○日出於東、盛於南方

『太平經』卷六十五、斷金兵法 天地以東方爲少陽、君之始生也、故日出東方。以南方爲太陽、太陽、君也、故離爲日、日爲君。南方、火也、火爲君。南方爲夏、夏最四時養長、懷妊盛興處也、其爲德最大、故爲君也、以此爲格法。

【原文】

天有三皇、地有三皇、人有三皇。天有五帝、地有五帝、人有五帝。天有三王、地有三王、人有三王。天有五霸、地有五霸、人有五霸。何謂也。
天有三皇若三光、地有三皇若高下平、人有三皇若君臣民。
天有五帝若五星、地有五帝若五嶽、人有五帝若五藏。
天有三王謂三光、五霸爲五嶽、與人地皆同。
天之三皇、其優者日、中者月、下者星。
地之三皇、優者五嶽、中者平土、下者田野。
人之三皇、優者君、中者臣、下者民。

【訓讀】

天に三皇有り、地に三皇有り、人に三皇有り。天に五帝有り、地に五帝有り、人に五帝有り。天に三王有り、地に三王有り、人に三王有り。天に五霸有り、地に五霸有り、人に五霸有り。何の謂ぞや。天に三皇有るは三光の若く、地に三皇有るは、高下平の若く、人に三皇有るは君臣民の若し。天に五帝有るは五星の若く、地に五帝有るは五嶽の若く、人に五帝有るは五藏の若し。天に三王有るは、三光を謂ひ、五霸は五嶽爲り、人地と皆同じ。天の三皇、其の優る者は日、中なる者は月、下なる者は星。地の三皇、優る者は五嶽、中なる者は平土、下なる者は田野。人の三皇、優る者は君、中なる者は臣、下なる者は民。

【譯】

「天に三皇が有り、地に三皇が有り、人に三皇が有る。天に五帝が有り、地に五帝が有り、人に五帝が有る。天に三王が有り、地に三王が有り、人に三王が有る。天に五霸が有り、地に五霸が有り、人に五霸が有る」。「どういうことでしょうか」。「天に三皇が有るとは、三光（太陽・月・星）のごときである。地に三皇が有るとは、高地・低地・平原のごときである。人に三皇が有るとは、君・臣・民のごときである。天に

五帝が有るとは、五星のごときである。地に五帝が有るとは、五嶽のごときである。人に五帝が有るとは、五臓のごときである。天に三王が有るとは、三光のごときであり、(地の)五霸とは五嶽であり、(天と)人・地とは、ことごとく同様である。天の三皇において、そのうちの優れたものは太陽であり、中等のものは月であり、下等のものは星である。地の三皇において、優れたものは五嶽であり、中等は平原であり、下等は田地である。人の三皇において、優れたものは君主であり、中等は臣であり、下等は民である。」

【参考】

『太平經』卷之六十六、三五優劣訣第一百二

天有三皇、地有三皇、人有三皇。天有五帝、地有五帝、人有五帝。天有三王、地有

三王、人有三王。天有五霸、地有五霸、人有五霸。何謂也。

天有三皇若三光、地有三皇若高下平、人有三皇若君臣民也。

天有五帝若五星、地有五帝若五嶽、人有五帝若五行五藏也。

天有三王若三光、地有三王若高下平、人有三王若君臣民。

天有五霸若五星、地有五霸若五嶽、人有五霸若五行五藏也。……

天之三皇、其優者若日、其中者若月、其下者若星也、其優劣相懸如此矣。

地之三皇、其優者若五嶽、其中者若平土、其下劣者若下田也、其優劣相懸如此矣。

人之三皇、其優者若君、其中者若臣、其下者若民、其優劣相懸如此矣。

【注】

○天有三皇：人有五霸、…天有三皇若三光、…

『後漢書』襄楷傳 夫天子事天不孝、則日食星鬪、比年日食於正朔、〔注〕延熹八年

正月辛巳朔、日食。九年正月辛卯朔、日食。三光不明、五緯錯戾。前者宮崇所獻神書、

專以奉天地順五行爲本、亦有興國廣嗣之術。其文易曉、參同經典、而順帝不行、故

國亂不興、〔注〕太平經興帝王篇曰、真人問神人曰、吾欲使帝王立致太平、豈可聞邪。神人

言、但順天地之道、不失銖分、則立致太平。元氣有三名、爲太陽、太陰、中和。形體有三名、

爲天、地、人。天有三名、爲日、月、星、北極爲中也。地有三名、爲山、川與平土。人有三

名、爲父、母、子。政有三名、爲君、臣、人。此三者、常相得腹心、不失銖分、使其同一憂、

合成一家、立致太平、延年不疑也。

○三皇、五帝、三王、五霸

『淮南子』人間訓 古者、五帝貴德、三王用義、五霸任力。

『孟子』告子下 孟子曰、五霸者、三王之罪人也。今之諸侯、五霸之罪人也。今之

大夫、今之諸侯之罪人也。

『白虎通』號 鉤命決曰、三皇步、五帝趨、三王馳、五伯驚。

『白虎通』號 三皇者、何謂也。謂伏羲、神農、燧人也。或曰伏羲、神農、祝融也。

……五帝者、何謂也。禮曰、黃帝、顓頊、帝嚳、帝舜、五帝也。……三王者、何謂也。夏、殷、周也。……五霸者、何謂也。昆吾氏、大彭氏、豕韋氏、齊桓公、晉文公也。……或曰、五霸謂齊桓公、晉文公、秦穆公、楚莊王、吳王闔閭也。

『太平經』卷一百一十七、天樂得善人文付火君訣 夫道亦有衰盛、比若此三皇五帝三王五霸矣。……三皇五帝多得道上天、或有尸解、或有形去。三王以壽、五霸無得正道者、皆戰鬪死於野。

『太平經』卷九十三、敬事神十五年太平訣 可知占天五帝神氣太平、而其歲將樂平安矣。……春也青帝神氣太平、夏也赤帝神氣太平、六月也黃帝神氣太平、秋也白帝神氣太平、冬也黑帝神氣太平。

○天有三皇若三光、地有三皇若高下平、人有三皇、若君臣民

『白虎通』封公侯 天有三光、日、月、星。地有三形、高、下、平。人有三尊、君、父、師。

『史記』天官書 天則有日月、地則有陰陽。天有五星、地有五行。天則有列宿、地則有州域。三光者、陰陽之精、氣本在地、而聖人統理之。

『太平經』卷之六十六、三五優劣訣 夫天地人本同一元氣、分爲三體、各有自祖始。故三皇者、其祖頭也。五帝者、其中興之君也。三王者、其平平之君也。五霸者、是其末窮劣衰、興刑危亂之氣也。故到五霸、迺四分有其一者、天道其統幾絕也。……夫天地人何不共三皇五帝三王五霸乎。善哉、子之難得其意。夫天地人分部爲三家、各異處。夫皇道者、比若家人有父也。帝道、比若家人有母也。王道、比若家人有子也。霸道者、比若家人有婦也。今三家各異處、豈可共父母子婦耶。是若人分爲三家、寧得共父母子婦乎。

(參考)『太平經』卷之六十六、三五優劣訣 天之五帝、其優者、比若四分日、有其三也。其中者、比若四分月、有其三也。其下者、比若四分星、有其三也。地之五帝、其優者、比若四分五嶽、有其三也。……人之五帝、其優者、比若四分大國、有其三也。……天之三王、其優者、比若四分日、有其二也。……天之五霸、其優者、比若四分日、有其一也。

○五星

上注「熒惑爲變最效」の項參照。

○五嶽

『說苑』辨物 五嶽者、何謂也。泰山、東嶽也。霍山、南嶽也。華山、西嶽也。常山、北嶽也。嵩高山、中嶽也。

○五藏

『春秋繁露』人副天數 內有五藏、副五行數也。外有四肢、副四時數也。

『白虎通』五行 人有五藏六府何法。法五行六合也。人目何法。法日月明也。

『白虎通』情性 五藏者何也。謂肝、心、肺、腎、脾也。……肝、木之精也。……肺者、

金之精。……心、火之精也。……腎者、水之精。……脾者、土之精也。